

立石科学技術振興財団

〔国際会議開催〕

申 請 者	京都大学 工学研究科電子工学専攻 教授 川上 養一	2155004
国際会議名称	The 15th International Symposium on the Science & Technology of Lighting (略称 LS15)	
開 催 期 間	2016 年 5 月 22 日～5 月 27 日	
開 催 場 所	京都大学医学部創立百周年記念施設, 芝蘭会館, 医学部構内 (京都市左京区)	
申請者の役割	実行委員長	

概 要：

本国際会議は、照明用の光源に関する科学と技術に関するシンポジウムとして 1975 年に始まり、現在では隔年開催で今回 15 回目となります。現在では LED が広く実社会に普及しており、固体光源とその照明応用全般を扱う世界規模で開催される重要な国際シンポジウムに位置付けられます。本シンポジウムの開催目的と学術的意義は、次の 3 点に集約されます。

- ・ 照明に関する科学技術情報の発信と議論
- ・ Academia と Engineering の交流の場の提供
- ・ 若手研究者・技術者の啓発と育成

今回の LS15 は京都大学および FAST-LS (非営利国際組織) と共催しましたが、2016 年は主催の照明学会が発足から 100 年目を迎えるため、照明学会 100 周年記念行事の一環としても位置付けられました。そのため 6 日間に亘り、国内外で第一線にて活躍する研究者、技術者、デザイナーの参加を得て白熱した議論がなされました。具体的には、国内から 135 名、海外は欧米、アジア、アフリカ、豪州の計 19 か国から 70 名の参加を得ました。発表件数は、基調講演、特別講演、招待講演、一般講演およびチュートリアル講義を全て合わせて 150 件となり、口頭発表並びにポスター発表にて行われました。内容は LED 結晶成長、有機 EL、紫外線光源、ランプや照明器具のアプリケーション、制御技術、光の生物に与える影響、光と概日リズムの関係、視覚や色覚など、現在の照明の科学技術に必要なテーマのほとんどを網羅したと言えます。最終日の特別講演は京大生にも一般公開され、2014 年ノーベル物理学賞受賞の天野教授からは、最先端の GaN 研究の展望とともに若手への励ましの言葉も頂くことが出来ました。